

| | | | | |
|-----------|-----------------------|------|----|----|
| 講義名 | 19 - 法学入門 / 15 - 法学概論 | | | |
| 担当教員 | 藤井 啓吾 | | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 火曜日 2時限 | 授業形態 | 講義 | |
| 履修開始年次 | 1年生 | 単位数 | 2 | 備考 |

| |
|--|
| 主題と概要 人が一生のうちに遭遇する可能性のある法律問題をたどり、社会生活における法的なものの方の基本を身につける。 社会生活を送る上で遭遇する可能性のある具体的な法律問題を設例として掲げ、その問題を解決するにあたって必要とされる法律上のルールを学んでいく。 |
|--|

| |
|---|
| 到達目標 社会生活におけるさまざまな活動の法律上の意味を理解し、説明できるようにする。 社会生活を送る過程でトラブルが生じた場合に、その法律上の位置づけを理解し、解決に向けての大きな道筋を描くことができるようになる。 |
|---|

| |
|---|
| 提出課題 各回(原則)の授業において提示する課題に対する答案の提出を求める。各回の講義内容を復習しつつ課題の答案を作成し、次回の授業の開始前に答案を提出すること。また、中間、期末にまとめのレポート課題を課す場合もある。 |
|---|

| |
|---|
| 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック 課題提出にあたって寄せられた質問に対する回答、課題の答案や提出されたレポートについての講評などのフィードバックは、オンデマンド型のビデオ教材やテキスト教材を利用して、受講者全体に対して行う。 |
|---|

| |
|--|
| 評価の基準 感染状況が好転しない限り、教室における定期試験を実施せず、評価は、各回(原則)の授業において提示する課題に対する答案、中間および期末にレポート課題を課した場合はその内容、授業に関する質問などの内容や提出状況を総合的に評価して行う。 合格最低ラインは絶対評価とし、この科目で留得すべきと考える最低限の内容すら留得しえていないと判断される者は不合格とする。合格者内の評価は原則として相対評価とし、受講者全体の GP の平均値が概ね 2.0 となるように評価する。 |
|--|

| |
|---|
| 履修にあたっての注意・助言他 ・毎回の授業の運営方法については、送られるメールやRYUKA Portal の「講義連絡」をよく読んで、必要な準備を行った上で授業に臨むこと。 ・課題の答案は、必ず授業を聴講した上で作成し、A 切りまでに必ず提出すること。 ・複数回の授業のまとめのための課題の答案(レポート)の提出を求めたにもかかわらず、答案の提出がない場合は、この科目の履修を放棄したものと判断することがあるので注意すること。 |
|---|

| | | | | | |
|-----------------------|--|--|--|--|--|
| 教科書 ・使用しない。 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| |
|--|
| プリント資料及び参考文献 必要な資料は講義連絡を通じて配布する。参考文献は、必要に応じて授業の中で案内する。 |
|--|

| |
|---|
| 授業計画 1 「法」とは何か 2 大人になる : さまざまな法律の規定とその適用開始年齢 3 大人になる : 契約を結ぶにあたっての未成年者の保護 4 買い物をする : 現金で買う 5 買い物をする : クレジット・カードで買う 6 買い物をする : ネットで買う 7 ハイトをする 8 初職活動、そして内定 9 正社員として働く・非正社員として働く 10 交通事故に遭った/交通事故を起こした : 交通事故と加害者の法律上の責任、交通事故加害者の民事責任 11 交通事故に遭った/交通事故を起こした : 交通事故加害者の刑事責任、行政上の責任 12 結婚する 13 子どもを授かる 14 人生の終わりとその後 15 まとめ・社会生活と「法」 |
|---|

| | |
|---|---|
| 授業形態(アクティブ・ラーニング) | |
| ア: PBL(課題解決型学習) | イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| ウ: ディスカッション、ディベート | エ: グループワーク |
| オ: プレゼンテーション | カ: 実習、フィールドワーク |
| キ: その他(A-L 型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | |

| |
|--|
| 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 予習: 事前の課題への回答を求めた場合は、A 切りまでに回答すること。 復習: 授業の中で取り上げた課題につき答案を作成すること。 予習・復習に対する時間配分は、1回の授業につき、平均して予習1時間、復習3時間を目標とすること。 |
|--|

| |
|---|
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 人間社会学部は、社会と社会を構成する人間に関する実践的な研究教育を行うことにより、財やサービスの流通に関わる社会の構造と変動、およびそれをもたらす人間の行為・行動を解き明かすことを研究教育上の目的としている。法は、「財やサービスの流通に関わる社会の構造と変動、およびそれをもたらす人間の行為・行動」を国家の強制力の裏付けのもとに規律するものであり、法を学ぶことは、人間社会学部の教育研究上の目的を達成することに資するものである。 |
|---|

| |
|---|
| 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 対面授業を実施する場合は、予習した内容の確認、授業内での質疑応答を目的として、respon を利用する場合があるので、利用可能な状態にして授業に臨むこと。 課題の提出にあたっては、Google Forms を利用する。直感的な利用が可能と思われるが、利用方法について留意していただきたい点が生じた場合は、別途案内する。 |
|---|

| |
|--|
| 実務経験の有無及び活用 実務経験あり。金融機関の法務担当者として、法律関連業務、訴訟対応などに携わった経験を活用し、社会人に求められる実践的な法律知識を身につけられるような授業を実施する。 |
|--|

| |
|--|
| 備考 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、シラバスの修正を行う場合があるので留意すること。 |
|--|